

# SBSTTA23報告 ポスト2020の視点から

国際自然保護連合日本委員会  
道家哲平 (NACS-J)  
2019.12.11



The screenshot shows the homepage of the '20th Biodiversity Decade' website. At the top, there are navigation links: 'にじゅうまる宣言をする' (Make the 20th Decade Declaration) and 'にじゅうまる活動を調べる' (Check 20th Decade Activities). Below these are three columns of text: '今、世界では目される生物多様性とは' (What is biodiversity being targeted in the world now?), '生物多様性を守る愛知ターゲットとは' (What are the Aichi Targets for biodiversity conservation?), and '愛知ターゲットを達成するためのにじゅうまるプロジェクト' (20th Decade Project for achieving the Aichi Targets). A central banner displays a countdown timer: 'にじゅうまるプロジェクトのゴールまで、あと 05:02:18' (Until the goal of the 20th Decade Project, 5:02:18 remaining), with '登録団体数 242' (Number of registered organizations: 242) and '登録事業数 329' (Number of registered activities: 329) as of 2015年10月14日 現在 (Current as of October 14, 2015). Below the banner is a section for the '日本自然保護大賞' (Japan Nature Conservation Grand Prize) awarded on September 30, 2015. At the bottom, there are social media links for Facebook and a 'Thank you Action' section. A red box highlights the 'にじゅうまる国際会議レポート' (20th Decade International Conference Report) link in the navigation area, with a red arrow pointing to it from the left.



bd20.jp  
 をご覧ください

# ポスト2020枠組み交渉での位置づけ

A: 過去の振り返り・現状把握・将来予測 → B: 枠組み/コンセプト/事業の精査  
→ C: 内部調整 → D: 文書化と決定

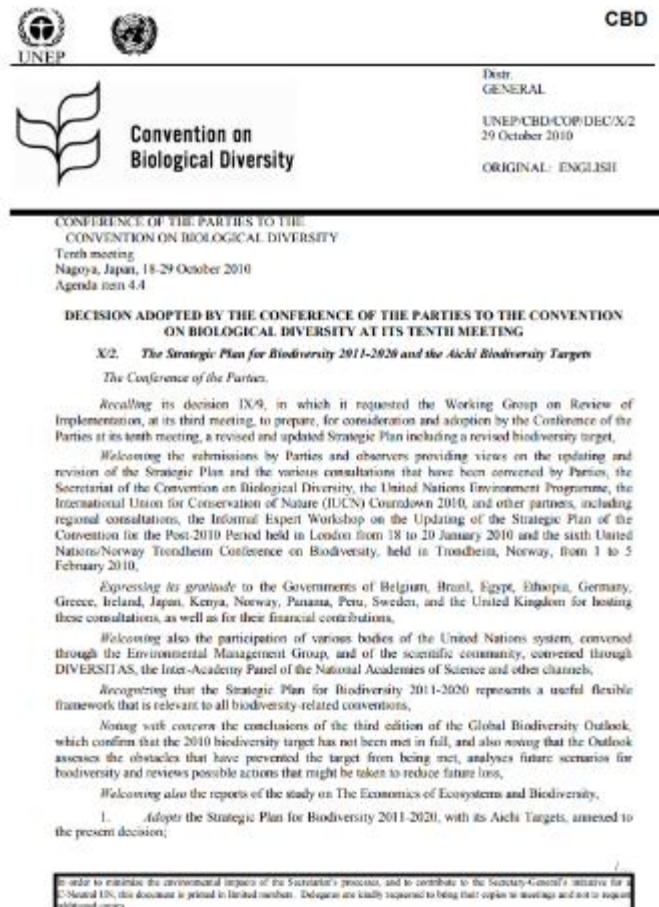
A: 自然に関する現状と予測 ([IPBES報告、2020年5月](#))

B: 2020枠組みの全体イメージ ([第1回ポスト2020作業部会](#))、目標のイメージ (**SBSTTAをおえ、ここまで来た**)、目標ごとの文言整理 (第2回ポスト2020作業部会、2020年2月)、枠組み後半部分・指標や実施の仕組みの検証 (第24回SBSTTAおよび、第3回SBI、2020年5月)

C: 目標を現実化するためのノウハウの共有や戦略作り (IUCN-WCC2020、2020年6月)、ポスト2020枠組み全体整理 (第3回ポスト2020作業部会、2020年7月)、ポスト2020枠組みへの政治的意思表明 (国連総会、ネイチャーサミット、2020年9月)

D: 最終合意 (CBD-COP15、中国・昆明、2020年10月)

# 愛知目標（生物多様性戦略計画2011-2020）の構造でいうと、、、

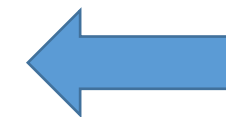


本体決定部分

- 付属書の“採択”
- 付属書の実施に向けた合意事項

付属書 1

- 愛知目標（戦略計画）本体
- 背景、ビジョン、ミッション、ゴール、ターゲット、実施手段などの目次と本文



この文章化に向けて、組み込むための要素出し

両方をもって、国際的に意味を成す（機能する）文書

# 2030 ミッション

- (a) 行動志向→成果→要素明示型) “Implement solutions across society by all stakeholders to halt and reverse biodiversity loss and enhance benefits-sharing/benefits of ecosystem services, contributing to the global development agenda and, by 2030, putting the world on a path to achieve the 2050 vision”:
- (b) 成果志向型 + 行動 + 目的明示型) “By 2030, put nature on path to recovery for the benefit of all people by protecting wildlife, restoring ecosystems, tackling the drivers of biodiversity loss and avoiding a climate crisis”
- (c) 成果志向型 + 目的明示) “By 2030, halt and reverse the unprecedented loss of biodiversity and put nature on a path to recovery for the benefit of all people and the planet.”
- (d) 愛知ターゲット踏襲型) “Take effective and urgent measures to halt the loss of biological diversity in order to ensure, by 2030, that ecosystems are resilient and continue to provide essential services, ensuring in this way the variety of life of the planet and contributing to human well-being and the eradication of poverty”
- (e) 主流化型) “By 2030, effectively integrate biodiversity into productive sectors and generate transformational changes in production and consumption patterns that allow the re-valuation of biodiversity and ecosystem services”
- (f) 行動志向型 + SDGs) “Implement solutions to address loss of biodiversity in order to increase the benefits that it provides to sustainable development”

# 論点を整理すると

- 「解決策を実施」という行動志向要素、「生物多様性の損失がとまる／回復の道筋に置く」という成果（状態）志向要素
- 状態志向は、2030年までに（Net）損失を止めるのか／戻す／回復の道筋に置く（回復までは至らない）の3つのパターンがあります。
- 回復の道に置く（Put Nature Pathway to Recovery）というミッション設定は否定されなかった。科学的・技術的に、今後の検討の選択肢となった。
- これに加え、人々〔の利益〕〔と地球〕のためにという目的明示の要素とそこに3つくらいの組み合わせが見て取れる。他に、主流化や持続可能な開発（目標）といった要素も、ただ主流化はミッションにはふさわしくないという意見も。
- 要素を盛り込むより、短めが良いという意見が多かった

# IUCNの主張

- ビジョン→ミッション→目標→指標→条件整備 (Enabling Condition)→→→→→→国家目標 (NBSAP)の連続性・整合性
- 世界枠組み設定と、国の枠組み設定・実施のギャップを少なく
- サイエンスベースドターゲット
- 生物多様性コミットメントの仕組み
- 個別の目標について、文案を提示し、具体的な議論を促進

# 種の目標案（愛知ターゲット12の後継）

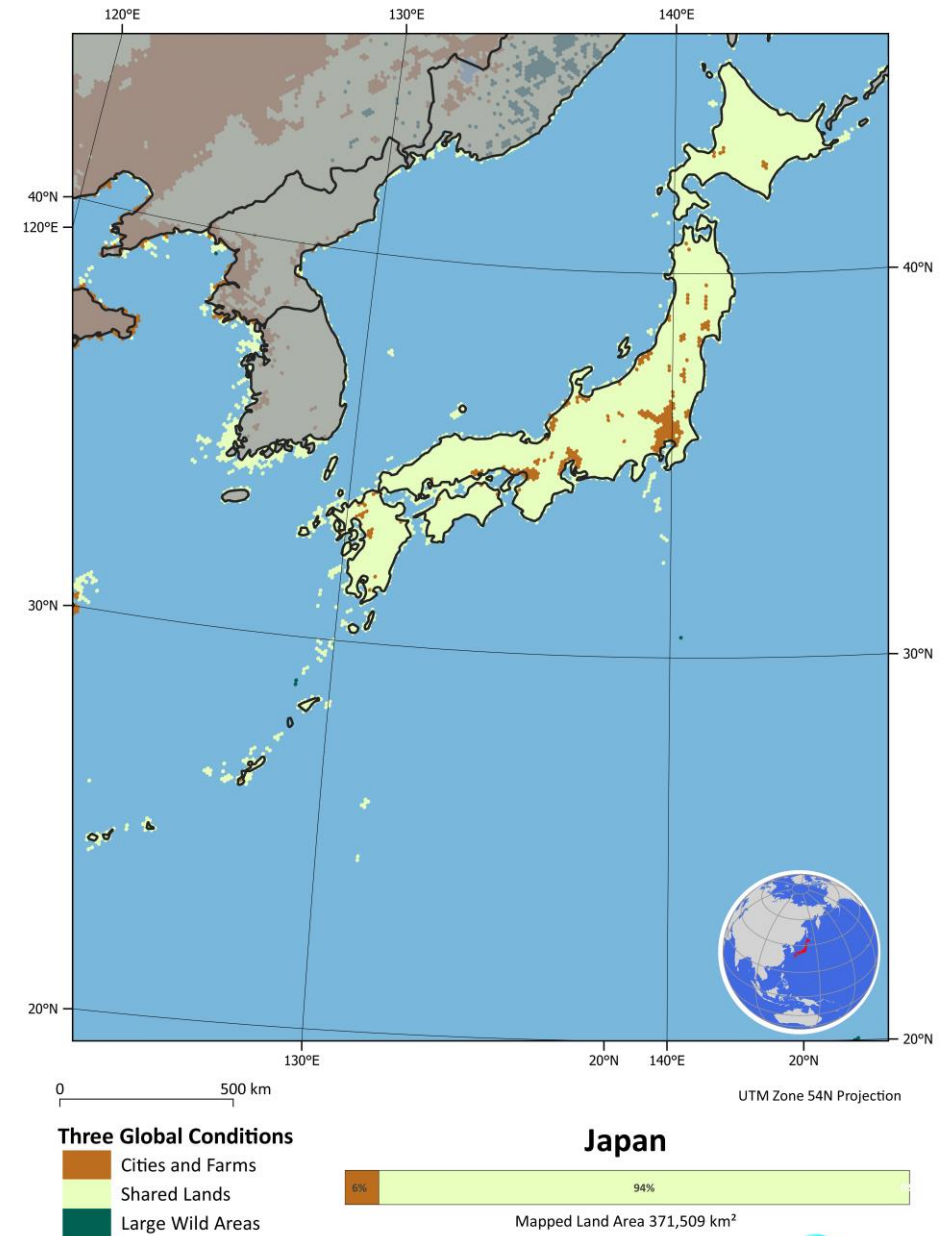
- 2030年までに種の個体数の減少を止め、それにより、2050年までに回復させ、全種の絶滅を防ぎ、2030年までに、少なくとも30%の種のステータスを改善し、2050年までに、全種のステータスを改善する。
- Halt overall species' population declines by 2030 such that they have recovered by 2050, prevent extinction of all species by 2030 and 100% by 2050



# 保護地域

<https://naturebeyond2020.com/>

- 陸地を大きく、都市、農地景観、自然という大きく土地を区切って、重点を変える手法を提案
- 3つの区分で行くと、絶滅危惧種が集中する生息地との重複もあり、合理性もある
- 都市（18%） = 絶滅危惧種の保全や生態系断面化の解消組強化。再生可能な農業/消費の推進などの主流化
- 農地景観（56%） = KBAの保護地域カバー率の向上や、生態学的代表性や連続性の確保。生態学的プロセスや固有種の個体数の復元や維持
- 大規模野生地域（26%） = 生態学的完全性の保持。大規模保護区や先住民地域保全地域などの拡張
- 海洋でも近いアプローチが可能



Locke *et al.* (2019) Three global conditions for biodiversity conservation and sustainable use: an implementation framework. *National Science Review* (in review). <http://naturebeyond2020.com/3conditions>

Map produced June 27, 2019 [three conditions 2015 v4; June 12, 2019]  
Cartography by Erle C. Ellis and Tom Hunt, Laboratory for Anthropogenic Landscape Ecology, UMBC

IUCN WCPA

## その他（遺伝的多様性や生態系）

- 2030年までに、野生および家畜化/栽培化された種内の多様性の損失を食い止める
- Halt the loss of genetic diversity within wild and domesticated species
- 2030年までに、地球の陸地・海洋・淡水にわたって、自然生態系や近自然生態系の統合性(integrity)や完全性(intactness)の純損失(net loss)を止める
- By 2030, halt the net loss of integrity and intactness of natural or near-natural ecosystem over the planet's terrestrial, marine and fresh water surface.



にじゅうまる  
プロジェクト



にじゅうまる宣言をする

今、世界で注目される  
生物多様性とは

にじゅうまるNEWS



にじゅうまる活動を調べる

生物多様性を守る  
愛知ターゲットとは

にじゅうまる  
国際会議レポート

お問い合わせ

サイトマップ

検索

愛知ターゲットを達成するための  
にじゅうまるプロジェクト

運営団体

にじゅうまる  
国際会議レポート

SBSTTA-23

IUCN-  
ARCF2019

1st-OEWG

CBD-COP14

SBI2

SBSTTA-22

SBSTTA-21

CBD-COP13

BCD2016

IUCN-WCC6

SBI1

## ■ 一歩前進？ まだまだ長い道のりを残す ポスト 2020枠組み交渉

2019-12-04 / SBSTTA-23, 愛知ターゲットの最新動向 - 国際会議レポート

ツイート

Like 0

Share 0

SBSTTA23が終了し、議事録含む8つの決定が採択されました。今回の成果をどう見る事ができるでしょうか？主にポスト2020枠組みの議論を中心に、予測も一部含む、個人的な見解をまとめたいと思います。



5日のうち、レセプションのあった初日を除き、  
11時過ぎまで毎晩交渉が行われました。

### ● 全体の雰囲気

SBSTTA23ではポスト2020枠組みのターゲット部分について科学技術的視点からポスト2020作業部会に助言をするという位置づけからの議論が連日行われました。ポスト2020作業部会で、ちょっと顔を出した「意欲度の高い目標を設定するには、意欲度の高い資金提供を」といった条件交渉はほとんどなく、比較的純粋に要素を洗い出し、実際の文言の作り方の体験をしてみたといった雰囲気を感じました。

2019.12.11発表資料 無断引用・転載禁止

[にじゅうまるプロジェクト  
BD20.jp](http://bd20.jp)

[国際会議レポート  
SBSTTA23](#)

[一歩前進？ まだまだ長い道  
のりを残す ポスト2020枠  
組み](#)

<http://bd20.jp/2019-12-4/>

# これからのフェーズ

- 2019.11 SBSTTA/8(j) (モンリオール)
- 2020.2 OEWG 2<sup>nd</sup> (昆明)
- 2020.5 SBSTTA/SBI(モンリオール)
- 2020.6 IUCN-WCCマルセーユ
- 2020.7 OEWG 3<sup>rd</sup> (カリ)
- 2020.9 UN-ネイチャーサミット
- 2020.11 COP15

ゴールとターゲットについての文案（共同議長案）を検討する機会

ポスト2020に掲げられる目標の「具体化」の手法（ユース参画含む）を世界中から集め、レベルアップさせる機会

首脳級や政治家の関心を高める機会

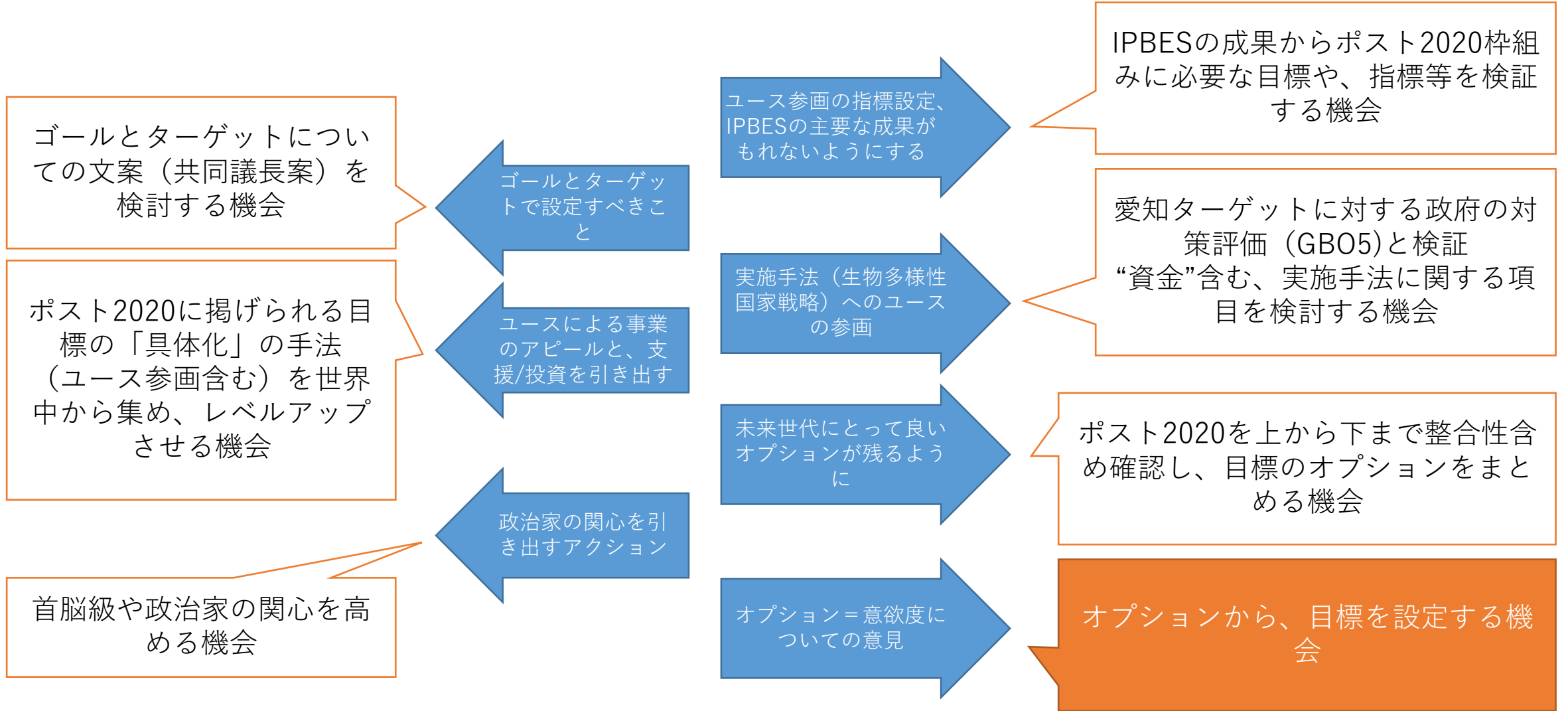
IPBESの成果からポスト2020枠組みに必要な目標や、指標等を検証する機会

愛知ターゲットに対する政府の対策評価（GBO5）と検証“資金”含む、実施手法に関する項目を検討する機会

ポスト2020を上から下まで整合性含め確認し、目標のオプションをまとめる機会

オプションから、目標を設定する機会

# これからのフェーズ



\* テーマ別会合は随時実施される見込み。例えば、世界ユースサミットは、2020年の4月に、日本で開催検討中  
2019.12.11発表資料 無断引用・転載禁止

# ポスト2020枠組みのポイント

- ミッション：生物多様性の損失を止めるための行動（ABT）から「損失を止め、復元へ」の視点
- 生物多様性の損失要因への対策：土地利用・消費と生産への視点の強化
- 生物多様性コミットメント/主流化：多様な主体の参画推進（環境省以外も生物多様性に取り組む。多様な企業/業種が、生物多様性に取り組む）
- SDGS s リンク：持続可能な地域（環境－社会－経済）づくり、循環経済（Circular economy）、地域循環共生圏
- これらを受けた、参加型で、効果的な生物多様性国家戦略や地域戦略の策定と、透明性・アカウンタビリティ・途中追加のある実施と、条件整備（Enabling Condition）

# IUCN-Jの取り組み

- 道家（NACS-J）、三石（UNDB-J、IUCN-J会員団体）の交通費支援  
Thanks to 地球環境基金、経団連自然保護基金
- 参加NGO向けの事前SBSTTAレクチャー
- 詳細なログ・レポート作成。参加期間中の解説－現地参加者向け、ウェブブログ
- 生物多様性条約事務局とのCOP15向けの情報収集
- 報告会（プレゼンの公開）
- 生物多様性の世界目標づくりへのユース参画の支援－生物多様性ユースアンバサダー事業（ご協賛企業・ご寄付を募集中）



## 第4回パートナーズ会合

# 10年の振り返りと 日本から世界に発信する新しい協働

2020年1月12日(日) 13日(月・祝)

名古屋国際会議場 (生物多様性COP10会場)



\*詳細は随時発表

環境省・愛知県・名古屋市・UNDB-J主催「UNDBせいかりレーキックオフイベント」との連動企画